

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 2 月 17 日作成)

小委員会名	日本建築史小委員会		主 査 名：溝口 正人 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会		委員長名：西澤 泰彦 主 査 名：
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	日本建築史研究成果の情報交換と研究の活性化 1) 日本建築史研究者の相互批判と情報共有のための研究会開催 (関東、関西) 2) 文化庁補助による近代和風建築・近代化遺産調査の内容整理と総合化 3) 日本建築史研究の成果の英語による発信		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 現在定員 14 名		
	主査：溝口正人 (名古屋市立大学)、幹事：清水重敦 (京都工繊大学)、委員：青柳憲昌 (立命館大学)、赤澤真理 (大妻女子大学)、梅津章子 (文化庁)、海野聡 (東京大学)、大野敏 (横浜国立大学)、金出ミチル (長岡造形大学)、是澤紀子 (日本女子大学)、富島義幸 (京都大学)、野村俊一 (東北大学)、藤井恵介 (東京大学)、麓和善 (名古屋工業大学)、光井渉 (東京芸術大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2020 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無し	

項 目	自己評価	
委員会開催数	1 回 (3 月開催を予定。オンライン) その他委員間の意見交換随時	
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし	
講習会	なし	参加者数 名
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし	
大会研究集会	なし	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1) 関西では近畿支部建築史部会が組織されており、関東では日本建築史研究会 が 2019 年度に再興された。日本建築史研究会の研究会が 2 回開催され、小委 員会委員も参加した (12/5、2/13)。また建築史学会大会シンポジウムと連携 しながら、日本建築史の枠組み造りについて情報交換を行った。 2) 3) については、1) の活動時を中心に、委員間の情報交換を随時行い課題 整理を行った。 2020 大会 PD「伝建制度創設 45 年目の再考」(民家小委員会・開催協力)。本 年度はコロナの影響で十分な活動はできなかった。	
委員会活動の問題点 ・課題	1) 研究者の世代交代が進み、新たな体制づくりが望まれる。 2) 民間所有建造物の保存活用計画への国庫補助が導入されるなか、社会への還 元となる保存活用活動との関係整理が必要である。 3) 『日本建築史図集』翻訳の膨大な作業量をどのように処理するか。	

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。